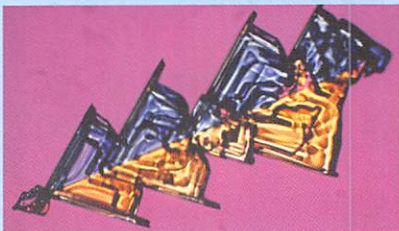


北海道立北方民族博物館 平成27年度企画展

雪と氷と北方民族

— 北の人びとの冬の暮らし —

Snow, Ice and Northern Peoples: Winter Lives of Northern Peoples



雪結晶の写真
(菊地勝弘氏・梶川正弘氏撮影)



トナカイ毛皮上着
(コリヤーク／ロシア マガダン州)



石版画「エスキモーのキャンプ風景」
(イヌイト／カナダ/Pitseolak作)

2016.2.6(土) ▶ 4.3(日)

観覧無料

開館時間 9:30～16:30

会場 北方民族博物館特別展示室

会期中の休館日 3/7(月)、14(月)、22(火)、28(月)

主催 北海道立北方民族博物館

協力 大島 稔 氏、亀田 貴雄 氏、
菊地 勝弘 氏、本多 俊和 氏

 北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)

電話 0152-45-3888 / FAX 0152-45-3889

指定管理者: 一般財団法人北方文化振興協会 <http://hoppohm.org>

施設設置者: 北海道教育委員会 連絡先 (北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 代表電話011-231-4111)

平成27年度企画展 雪と氷と北方民族—北の人びとの冬の暮らし—

Snow, Ice and Northern Peoples: Winter Lives of Northern Peoples

北方圏は、冬季に雪や氷に覆われ、厳寒期を迎えます。厳しい冬季の暮らしのなかで、北方先住民は知恵と工夫によって生活の障害となる雪や氷を克服してきました。また、雪や氷を生活のなかで利用することさえもありました。

本企画展では、多数の雪結晶の写真を交えながら雪と氷について解説し、北方先住民が冬季の環境にどのようにして適応してきたのかを、冬の衣類、住居、生業、運搬・移動手段、さまざまな道具に関する資料を通じて紹介します。

北方先住民の冬の暮らし

環北太平洋地域に暮らす北方先住民は、夏に大量に捕獲した魚などの食糧資源を貯蔵し、冬に不足する食糧を貯蔵食糧で補う生活をしてきました。冬は、儀礼と、互いに招待しもてなし合う社交、饗宴の季節でした。

冬のあいだ、先住民たちは断熱効果の高いトナカイなどの毛皮を素材とした衣服や靴を着用しました。特に寒さ

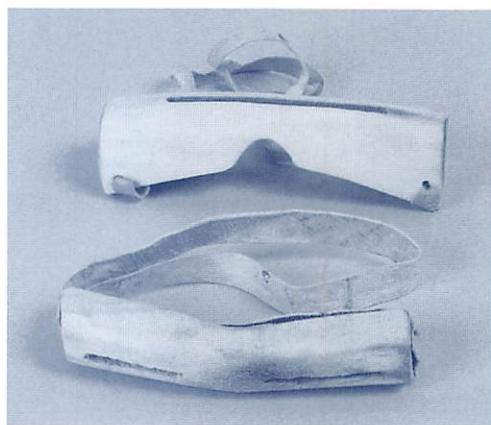
の厳しい地域では、保温性の高い半地下式の住居に住む人びともいました。

また、そりやスキー、かんじきといった雪上での運搬・移動手段や歩行具、除雪や生業を行うために工夫された道具類がうみだされてきました。

冬に用いられる道具の中には、雪払い具や氷を砕く鑿、除雪用のシャベル、靴の底に付ける滑り止めなど、日本の降雪地帯でもみられるものがあります。一方で、イヌイトが用いた照明・暖房用の石製ランプや、雪原の照り返しから目を守るための雪めがねなどのように、北方先住民独特の道具もみられます。



氷上釣り（ロシア カムチャツカ、2003年、大島稔氏撮影）



骨製雪めがね（イヌイト／カナダ）

<企画展会期中の行事>

- 2月6日(土) 13:30-15:00 講座「カムチャツカの氷下漁」講師 大島 稔氏（小樽商科大学教授）
2月11日(木・祝) 北方民族博物館開館記念感謝DAY！（当日は無料開館）
2月13日(土) 10:00-12:00 はくぶつかんクラブ「雪あそび」講師 野口泰弥（当館学芸員）
2月14日(日) 13:30-15:00 中垣哲也オーロラ上映会&トークライブ 出演 中垣哲也氏（オーロラ写真家）
2月20日(土) 13:30-15:00 講座「雪と氷の神秘」講師 亀田貴雄氏（北見工業大学教授）
3月11日(金) 13:30-15:30、12日(土) 10:00-12:00 講習会「とんぼ玉づくり」講師 笹倉いる美（当館学芸主幹）
3月26日(土) 10:00-11:30 館長講座「遺跡は何故できるのか」講師 岡田淳子（当館館長）

【お問い合わせ／お申し込み】

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
（天都山・道立オホーツク公園内）
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
指定管理者：一般財団法人北方文化振興協会
<http://hoppohm.org>

